

す て き な ち い き

ゆ	め		い		さ	く	ら
-		き	よ	う	と		ん
す	い	り		や	ん	ま	
		ち	ぎ	り	ま		ん
			り		て	ま	き
く	り	す	ま	す	つ	り	-
う			に	と	り		
き	や	り	あ			な	す

*当選者には今月中にエースワンの商品券を届けます。

*エースワンのレシートは久重保育園の財政運営に貢献してくれていますので、当選者には購入後のレシートをオレンジポストに投函するようお願いしました。

久重クロスワードパズルのこたえ

久重地域連携協議会「ニュース55号」の「新春お年玉クイズ」には59通の応募がありました。新年1月の連携協議会役員会において、正解者の中から厳選なる抽選を行い、10名の方に千円相当の商品券を発送させていただきました。なんと今回、夫婦、兄弟、親子での当選が立て続けにありました！抽選結果に大盛り上がり役員会となりました。クロスワードのこたえのように、久重地域に住む皆さまにとって「素敵な地域」となりますよう、力を合わせて頑張っていきましょう。



抽選は、応募者59人に通し番号をふり、会に参加して下さっていた市役所職員の方と役員、合わせて10人で1枚ずつ引きました。

10人に千円の商品券 お年玉クイズの抽選行う

豊かな里山 次代へつなげ!

- 【主な記事】
 1面 新年!七草フェスタ
 2面 有償ボランティア 小屋完成、
 3面 人口減少と保育園
 4面 クロスワードパズル。有用植物、新刊書紹介

久重地域連携協議会 ニュース

1月1日久重人口	
世帯	人口
全体 498	1038
(-3)	(-7)
久礼野 141	307
重倉 357	731
()内は前月との比較	

—第56号—
 2024.1.25発行
 発行責任者:林照男
 編集:広報委員会
 高知市重倉1596-134
 電話090-4501-3190

ホームページ:「久重連携」で検索ください。



里山の春を呼ぶ七草フェスタ
 久重の新しい年は「春の七草フェスタ」から。背景の雲が西日を受け登り龍みたい(こいつは春から縁起がいい) 11月7日、撮影:今久保美和さん提供

採取した春の七草を子どもたちが刻む

竹で作った箸とお椀(お持ち帰りOK)

孟宗竹に入ったお漬物

待ちに待った竹パン

久重 natural チームも活動団体として参加する高知市の事業「こうちこどもファンド」の10年にわたる活動の記録『こどもまちづくりファンドーミュンヘンから高知へ』が2023年11月に刊行されました。久重地域のまちづくりのアドバイザー島中洋行さんと、こどもファンドを高知市へ導いてこられた早稲

新刊書紹介



田大学の卯月盛夫教授の共著です。こどもファンドに取り組み子どもたちと久重地域の人々との関わり約20ページにわたり紹介されさらに、まちづくりのモデルとしてもねうち付けていただいています。また、第54回博報賞受賞も書籍に掲載されています。読みやすい文章と写真で構成されており、184ページ税込1,980円。金高堂書店などで販売しています。(問い合わせは武林まで090-4978-5248)

久重の有用植物 希少植物



第5回ナズナ

(有用植物)

ペンペン草と雑草扱いされることが多いが、有用植物として昔から冬季の貴重な野菜であった。正月7日の七草粥には欠かせない食材となります。ミネラル中には鉄分やマンガンも多く、常食すれば補血に役立ち薬効にも優れた薬草として用いられます。

編集後記

○今ここで地震が起きたら?今いる場所で大地震が起きた時、自分の身に何が起ころるか?その場その場でイメージしながら過ごそうと思えます。(ひろつちゃん)
 ○七草フェスタに参加して、改めて久重地域で暮らしていることに喜びを感じます。自然・人が素晴らしい(イツコウ)
 ○今年も色々なことにチャレンジしていきたいです!健康悠母
 ○オレンジポストをご存じですか。「支え合いのまち久重」の第一歩として導入されました。ぜひお知らせ事などご投函ください。15日と月末が回収日。俳句や短歌もお待ちしております(スノー)
 ○お年玉付きクロスワードはいかがでしたか?前回に引き続き、広報委員会のメンバーが頭を捻って考えていますが、皆様からも問題募集しています!(なとみはよれ)
 ○百歳体操時の事前学習で、まもなく百歳以上の高齢者5人に一人は認知症の時代が来ると聞く。久重地域は高齢人口が100人なので、100人近くがやがて認知症に。そんなことはあるまいと否定したい思いの一方で、そろそろ認知症への対応も地域課題になってきたなど溜息をつく・・・(リン)

新年早々、能登地方を襲った地震は家屋の倒壊や火災等により多くの人命を奪いました。今なお、被災された方々は厳しい生活を強いられています。報道等で能登の現状を見るにつけ、南海トラフ地震のリスクのある私たちは、昨年12月の防災イベントで高知大学の岡村眞名誉教授が話された地震への備えについて常に考えておかなければならないと、改めて決意をさせられる新年となりました。大きな災害や事故のニュースで幕開けした2024年でしたが、久重地域では、1月7日(日)に4年ぶりに「春の七草フェスタ」が開催されました。地域内外から170名を超える参加者があり、明るくにぎやかなお正月を迎えることができました。「自然の中で楽しい一日が過ごせました。」提供された食べ物は何れも大変おいしかったです。「小・中・高生の活動がとても素晴らしかった」「来年もぜひ参加したい」などうれしい感想をたくさんいただきました。当日までの数々の準備、当日の多くの方のお手伝いなどがあっての素敵な「春の七草フェスタ」になりました。移動、飲料水問題など地域が独自に抱える課題や人口減少への対応など地域を超えた課題など、今年も多くの課題に立ち向かうこととなりますが、力を合わせ元気に頑張っていきましょう!

力を合わせ素敵な久重を!

人口減少と久重保育園

7月に意見・要望を提出

久重地域の0〜4歳児人口は2006年43人、17年後となる2023年は24人と約半数まで減少しています。高知市全体から見ても2026年には乳幼児数約3,200人と、現在の約25%まで減少すると示されており、人口減少は保育所運営に深刻な課題を投げかけています。

市内の民間保育園では園児確保のために魅力ある保育園づくりに職員が一丸となっているという話が聞かれています。

公立保育園では統廃合など有識者による今後のあり方が検討され報告書がまとめられました。

久重保育園は、1小学校区に1保育園は必要という考え方もと統廃合の対象とはなっていません。しかし、園児数が今後数人、場合によってはゼロになる可能性も否定できない現状では、今後どうしていくのかの検討が求められています。高知市から今後のあり方についての検討をしたいとの話を持ち掛けられており、地域としては意見・

望をまとめ7月の市長との意見交換会に提出する旨返してあります。市との話し合いはそれ以後になると思われれます。

『久重のこどもは久重で育てる』を基本理念とし、これから生まれてくるこどもたちのことをしっかり頭に置いて、保育園の魅力化を図

今後のあり方についての地域の要望

りながら、来たくても来れない壁を取り払うため、1・2歳児からの受け入れやファミリーサポートセンターを活用した保育時間の弾力性などを関係者で話し合い、意見をまとめ7月の市長との意見交換会に要望していききたいと思います。

未就学児童が楽しく交流

久重保育園と緑ヶ丘団地

現在緑ヶ丘団地には4人の保育園児がいますが、久重保育園へ通う子どもはいない現状です。

そのため、昨年12月16日緑ヶ丘団地と久重保育園のこどもたちが交流する「こどもたち全員集合！」というイベントが開催されました。

当日は、約20人のこどもたちと保護者を合わせて40人近い参加があり、ゲームやビンゴプレゼントで交流を深めました。

市内の保育園へ通園している保護者の方に久重保育園にこない理由をお聞きしました。

・3歳児からしか受け入れがない(2人)・保育時間が合わない(1人)・保護者勤務地近くに祖父母がおり安心(1人)



久重保育園の園児と緑ヶ丘団地園児、それぞれの家族約40人が緑ヶ丘団地公民館に集まり、ゲームやビンゴで楽しく交流しました。12月16日

久重保育園の生活紹介

コロナ前まではとさやま保育園にて合同で餅つきをおこなっていました。4年ぶりの餅つきは、昔々使われていた臼と杵を引っ張り出し、久重保育園で『ヨイショー!』餅つきを見たこともしたこともない子どもたちは、目をキラキラ輝かせていました。



久重保育園は今年、新しいお友達が仲間入り♪6人になりました!

* 連携協議会では、11月15日「久重保育園を応援する会」を発足させ、久重保育園へ通いたいと思っている地域の子どもたちが市内へ通わざるを得なくなるようなことがないように応援することとしました。久重保育園の魅力発信していきます。

オレンジポスト投稿

目が見えなくて大切な郵便物かどうか分からない・・・

11月、視覚障害のある方からオレンジポストに投稿がありました。

内容は、郵便物が自分にとって必要なものなのかそうでないものなのか一人暮らしになり識別がつかなくなったので1〜2週間に一度訪問してもらって、開封してもらえないかというものです。

役員の中平さんが仕事でかかわっている方でもあり、12月、1月の役員会で対応を話し合い、ボランティアで訪問してもらえ方がいらないかどうか連携協ニュースで呼びかけることとしました。

詳しくは中平さんまでご連絡ください。

- 希望者 白土勉さん(重倉 1274)
- 連絡先 中平さん(連携協役員・緑ヶ丘団地)
- 電話 090-5918-1708

有償ボランティアについて学習



市の担当者を招き有償ボランティアについて学習をした第63回役員会=1月17日

身近なお困りごとは地域で解決!

久重地域らしい支えあいの地域づくり(II久重型共生社会)を進めている連携協議会では、1月17日の第63回役員会で有償ボランティア制度についての学習会を行いました。

久重型共生社会は3つのことができないければならないと考えています。

- ①(住民同士、住民と連携協議会が)つながること、
- ②(地域で解決できること)としていたお困りごとの解決するための地域力をつけること。
- ③(地域で解決できないこと)としていたお困りごとの解決すること。

そのことにより「助けて」、「助けてあげて」を言える関係を築くこと。

②(行政や専門機関にお困りごとをつなぎ解決を図ること)。

③(地域で解決できないこと)としていたお困りごとの解決すること。

①(住民同士、住民と連携協議会が)つながること、

たお困りごとはすべて役員会で対応を討議し、警察や市役所などへつなぎ解決を図ってきました。

しかし、家具の移動や庭木の剪定、ゴミ出しなどちよつとしたお困りごとの対応はできておらず、それらは生活を支援するボランティアが必要であると痛感

市内には、生活支援のボランティアセンター(無償)やシルバー人材センター(有償)がありますが、久重地域のお困りごと解決には至っていません。

そこで高齢者一般の制度ではありませんが、介護予防制度である高知市訪問型B事業とマイレージポイント制度を組み合わせれば有償のボランティア集団を作ることが可能ではないかと市の担当課である基幹型地域包括支援センターの職員に来てもらって学習会を開催しました。

この制度の効果や仮に導入するとした場合の課題などはこれから検討していくこととなります。導入前提ではありませんが、久重型共生社会推進の立場に立つた検討を進めていきます。



久重 youth の公園づくり

小屋(東屋)が完成

2023年4月、「久重 youth」が発足し、この1年久重のまちづくりに参画し地域のイベントで奮闘しました。また、子どもたちの夢である公園づくりのスタートに、地域の方々からご協力をいただき2024年1月、山の上に小屋が完成しました。

山の道を拓く、頂上の整地、小屋の図面、見積もり、基礎工事、足場の架設、柱立て、屋根工事...地域の方、たくさんの企業のみなさん、高知工業の学生さんに...建築工事に熱心に関わっていただきました。感謝の気持ちを寄せ書きに込めお礼をお伝えしました。今後は、山の名前や公園の構想を話し合っていきます。

YOUTHが進めている公園づくり。高知工業の生徒が駆け付け、最後の金具の取り付けを終えて見事小屋(東屋)が完成しました。11月10日



久重保育園前から小学校へ伸びるあざやかな緑のライン=1月17日

久重地域にも!

初お目見え

グリーンベルト

―市への要望行動実る

「グリーンベルト」：聞き慣れない言葉ですがグリーン帯とも言います。歩道が整備されていない小学校の通路の路側帯を緑色に着色して、車両の運転手に通学路であることを視覚的に訴え、速度を抑制させ歩行者との接触事故を防ぐためのものです。道幅によりませんが、小学校から半径500m以内への設置が基準。新しい道の建設に応じて施工の予定です。

毎年7月に行われる「中山間地域の代表と市長との意見交換会」に安全な通学路整備を挙げてきた久重地域の願いであったグリーンベルトが設置されました。同時に小学校周辺の路側帯の白線(道路外側線)もくっきりと引き直されました。

このように生活に関するお悩みの声をオレンジポストに挙げてください。役員会で話し合い市へ要望して改善に取り組みしましょう。(要望内容を詳しく知るため、オレンジポスト投かんには、お名前、連絡先の記載もお願い致します)